

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第二3:4~11「栄光ある務め」

[4]「私たちはキリストによって、神の御前でこういう確信を持っています」

この節はその前の1~3節を受けて語られているところで、パウロたち伝道者にとってコリント教会の兄弟姉妹たちこそが、生ける神の御霊によって書かれたキリストの手紙、推薦状であるということを神の御前で確信しているとの表明である。

[5-6]「何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというのではありません。私たちの資格は神からのものです。神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです」

パウロはここで自分たちが福音を宣べ伝える資格は神から与えられているということをはっきりと示す。神ご自身が彼を選び召してくださったからこそ宣べ伝えることができる。しかもそれは新しい契約に仕える者となる資格である。新しい契約とはすなわち新約であり、それに対して古い契約、旧約がある。6節では旧約は文字、新約は御霊ということばで表されている。旧約は書かれた文書、文字にもとづいている。それは石の板に刻まれた十戒に代表される。神が与えられた命令、戒めをモーセが書き記し、これを契約の書としてイスラエルの民に読み聞かせた。→出エジプト24章　これが律法となり、人が神の前に正しい者であろうとするとき、この律法を完全に守り通さなければならないのである。もし一つでも守れなければ神の前に裁かれ有罪となり、死と滅びが待つのみ。それは人が何をなすべきかを示すことにおいては完璧であったが、それを実行する力を与えることはできなかった。それゆえ「文字は殺す」のである。新しい契約はこれとは異なり、それは御霊の力にもとづいており、神のひとり子イエス・キリストがその新しい関係を打ち立ててくださった。→ヨハネ3:16　もはや神と人間との関係は裁判官と罪人ではなく、御霊の働きにより、イエス・キリストを救い主と信じる信仰により、父と子の関係とされたのである。新約は人に何をなすべきかを命じるだけではなく、御霊によってそれを実行する力も与える。「御霊は生かす」のである。

[7-8]「もし石に刻まれた文字による、死の務めにも栄光があって、モーセの顔の、やがて消え去る栄光のゆえにさえ、イスラエルの人々がモーセの顔を見つめることができなかつたほどだとすれば、まして、御霊の務めには、どれほどの栄光があることでしょう」

パウロはここで旧約と新約を比較、対照している。モーセが十戒の刻まれた石板を持ってシナイ山から降りてきた時、彼の顔のはだが光を放っていたので、誰も彼に近づくことができなかつた。→出エジプト34:30　しかしそれはやがて消え去るべき一時的な栄光に過ぎなかつた。イエス・キリストが神と人間との間に打ち立ててくださった新しい契約は、それよりもはるかにすばらしい栄光がある。それは有罪の宣告ではなく赦しを。死ではなく、いのちを与えるものだからである。死すべき魂をも生かす御霊の務め、すなわち福音を宣べ伝えることの栄光は、律法をもたら

したモーセの栄光よりもはるかにまさっているのである。

[9-11]「罪に定める務めにも栄光があるのなら、義とする務めには、なおさら、栄光があふれるのです。そして、かつて栄光を受けたものは、この場合、さらにすぐれた栄光のゆえに、栄光のないものになっているからです。もし消え去るべきものにも栄光があったのなら、永続するものには、なおさら栄光があるはずです」

太陽が昇れば月や星の輝きはなくなる。キリストのしもべとして福音を宣べ伝えることの栄光は旧約のモーセの栄光をも色あせたものとするほどのものである。そして新しい契約、新約はいつまでも続く。律法はキリストに導くための養育係としての役割を果たした。→ガラテヤ3:24 そしてキリストは律法の終わりとなってくださった。→ローマ10:4

このすばらしい福音を宣べ伝える務めは光栄なものであり、栄光に満ちたものである。そして、この務めはパウロばかりではなく、信じるすべての者にも委ねられている。イエス・キリストを救い主と信じるすべての信仰者はこの光栄ある務めに召されていることを自覚しなければならない。